



うう寒い。車の温度計に「3℃」の文字。

つい最近まで半袖で、スイカを食べたりそうめんをすすったり、アサツキをかじったりしていたんじゃないか。

光陰矢の如し。

たった数カ月でこんなにも様変わりするこの豊かな四季に感服しながら、師走を迎えております。

皆さまお変わりありませんでしょうか。

いよいよ雪が降る季節になってきましたね。

昼間でも薄暗く「雪なんて真っ平御免」という方も多いかと存じます。

筆者にとってはとても好きな季節で、確かに寒いし暖房代も馬鹿にならないし、道路は混むしということでもなかなか大変なのですが、それでも好きです。

日本屈指の農業県新潟はこの時期に齎される雪によって潤いを得ており、

なんといっても例えば越後生まれの私たちが共有する雪や冬にまつわるエピソード、

道が悪くなって渋滞する車列に漂う一体感（感じ方は人それぞれ）など、

この季節こそ、私たちのアイデンティティを育んでくれていると思うのです。

雪国万歳。

年末年始や年度、節句やお盆など、「一年」には幾多の区切りがあって、  
なおかつ朝晩さえ別段何もなければ放っておいても、  
容赦なくやってくるもので一喜一憂したり締めたり緩めたりするものでもないと思いつつ、  
やっぱり「年」「末」ということで何かしら終わりを意識してしまうのですが、  
終わらないと始まらないものもあるということで。

ウィンタースポーツはこれからが活況ですし、  
来年も長岡を盛り上げてくれる花火師さん達も来年に向けての仕込みに忙しくされておられることと思います。

暖かい食べ物がおいしい季節になりました。

本コラムの「今年」を振り返ると、

催しや場所に関するあらましや回顧的なものを多く挙げさせていただいたと思います。

過去なくして現在なし（いきなり何だと思ひの方、ご容赦下さい）。

現在というものは、常に先人たちや“これまでの私たち”が歩んできた道の先にあり、

朝を迎える度に、その積層の上に足を踏み出している。

仰々しいですが、どんな催しにも土地にも、物にも、行き交った想いが宿っていると感ず。

ささやかに溶けて地面に染みる雪を夏の緑に感じられるような、そんな人間でありたいと思います。

温故知新。

ここで、長岡という街を「数」で俯瞰してみようと思います。

長岡市の1年人口推移（平成26年度）を参照すると、

転入が6,328人、転出7,153人、出生2,053人、死亡3,362人で2,134減となっています。

※総人口は277,013人(平成27年11月現在)。男女比は、男性が135,112人、女性が141,901人。

すべての地域で女性の数が男性を上回っています。

高齢化の証とも見て取れますが、それよりも長岡の女性はお年を召しても元気でおられるということ。

男性も負けてはいられませんね。

ちなみに市政施行当時（1906年）の長岡市の人口は3万人余り。

市の面積そのものも当時の100倍近くになっているので特筆することではありませんが、この100年あまり、「長岡」というキーワードを共有する人は桁違いに増加してきたということです。

毎年、数千人が出会い別れていく長岡。

毎日、様々な想いが街を行き交っていることでしょう。

皆さんにとって、今年の長岡はいかがだったでしょうか。来年はどんな長岡を過ごしたいですか。

どうか良い締めくくりと、希望あふれる新しい年をお迎えください。